

 <h1 style="margin: 0;">群馬県国際理解教育研究会だより</h1> <p style="margin: 0;">群馬県国際理解教育研究会      発行責任者 会長 富澤 厚</p>	<p>2017年(平成29年)</p>  <p>第3号</p> <p>平成29年12月1日発行</p>
---	--

11月25日(土)、13:45~17:00 生涯学習センターにおいて、シニア派遣セミナー及び第2回帰国教員実践報告会が開催されました。今回の会場は30名程度の定員の会場でしたので、会場もいっぱいでした。一般で14名、発表者8名、会員16名が参加しました。前半はシニア派遣セミナー、後半は実践報告会でしたが、発表者の熱心な話に参加者も引き込まれ、時間が経つのを忘れてしまう状態でした。以下に概略を紹介します。

<シニア派遣セミナー「海外日本人学校を体験して」> 14:00~14:40

前シンガポールクレメンティ校 理科専科教諭      糸井博 先生 (H26~H28派遣)



## 1 在外教育施設の現状

各県教育委員会からの推薦数が減少、派遣教員の資格要件の緩和、シニア派遣教員の活用、予算の確保などが課題である。そのため、シニア派遣教員は増加の傾向にある。しかし、必要な派遣教員数は確保できていない。平成25年調査によるとシニア派遣の応募がゼロの県は10県。在外教育施設での課題として①海外環境を活用した授業②免許外教科の実施③教員充足率④派遣教員の業務負担感などが挙げられる。

## 2 シニア派遣の希望から派遣まで

応募条件は、校長、教頭、教諭。ただし、初めて派遣される場合は管理職であっても教諭として派遣。派遣期間は2年が原則、ただし最長で4年間まで延長できる。

4月・・・一時考査募集(履歴書、健康診断、論文、教育委員会からの推薦書など)

7月から8月・・・二次考査 文科省 面接とパソコン技能(ワード・エクセル)

12月・・・結果通知 合否結果と派遣予定校のお知らせ 準備、派遣校との連絡 各種証明書の取り寄せ

1月・・・オリンピックセンターでの研修 同一勤務校職員との顔合わせ 派遣校校長との面談 引越し業者の決定

2月3月・・・渡航準備 予防接種 住宅仮契約資金の海外送金 引越し荷造り

## 3 シンガポール日本人学校について

○小学部のクレメンティ校      ○派遣教員と現地採用教員      ○カリキュラム(週当たりの持ち時数 理科専科の授業) \*教材の準備がとても大変だったようです。

○各種行事      ○教員の仕事と課題 早期帰国派遣教員の事情 派遣教員の落とし穴

## 4 シンガポールの生活

○多民族国家 交通 安全 宗教 言語 文化

○趣味のマラソン

## 5 シンガポール人と日本人の歴史

○日本の占領時代を経て

○戦争資料の展示（国立歴史博物館 オールドフォードファクトリー ブキバト記念碑

## 6 海外で学ぶ子供たちと派遣教員に望むこと

\* 2年間の体験を、国の特色及び学校の特色を通してお伺いすることが出来ました。たいへんありがとうございました。

### 第2回帰国教員実践報告会 14:40～



<台中日本人学校での実践>

長野原町立東中学校 教頭 齋藤秀一先生

学校の特色やカリキュラム、学校運営方針や教育目標の話に加えて、教頭としての苦労や職員をまとめる苦労について、エピソードを織り交ぜながら話してくださいました。やはりいろいろな県から集まっている集団である派遣教員と現地採用教員との人間関係やスタッフとの人間関係など、管理職ならではの苦労がたくさんあったようです。



<バンコク日本人学校での実践>

吉岡町立駒寄小学校 教諭 戸塚順子先生

受験から派遣までの日程やそのときの心情、期待と不安の中での準備などこれから派遣を考えている人にとってはどんな風に派遣されていくのかわかる話でした。また、帰国時はほんの少しの荷物だけにしてほかはごみとして廃棄したとの事です。廃棄された家具や生活雑貨は現地の人たちが再利用してくれているでしょうとのことでした。言葉の問題や生活の問題など女性の視点で話していただきました。



<ダッカ日本人学校での実践>

長野原町立東中学校 教諭 柴崎俊哉先生

児童数は1年目33名から3年目には25名に減少。派遣教員7名、現地採用教員3名、非常勤4名の学校だそうです。朝の学習、イマージョン教育、ダッカタイム、学習発表会、交流学习などの行事があり、担任として、そして教頭としての仕事をし、学校運営にも関わってきたとのことです。週あたり23コマから25コマを受け持ち、授業を実践してきたとのことでした。



<バンコク日本人学校での実践>

館林町立美園小学校 教諭 森脇剛先生

動画や映像を駆使したわかりやすい発表をしてくださいました。所々に学級経営の難しさという言葉が織り込まれ、児童の人間関係だけではなく保護者の人間関係にも配慮しつつ児童の指導を行わなければならないという難しさ。さらに、児童数がマンモス化している学校での職員間の人間関係の難しさなど、大きな学校ならではの難しさが伝わってきました。準備された資料から森脇先生の意欲が伝わってくる発表でした。